Okayama EU Letter

Vol. 2

岡山ＥＵ協会会報　2010. 9

★ 初めての総会 ★

設立後初の総会となる2010年度通常総会が６月８日（火）午後３時から、岡山市北区の岡山全日空ホテルで開かれ、2009年度事業報告・収支計算書案、2010年度事業計画・予算書案、役員の選任など５議案を審議、いずれも原案通り可決、承認されました。

法人会員61・個人会員37人のうち40人が出席、欠席者の36人から委任状あるいは代理出席がありました。総会後、駐日欧州連合代表部のジャン･フランソワ･ビーエ通商担当官が「将来的な日・ＥＵ　ＦＴＡの可能性について」と題し記念講演を行いその後、懇親会を開催、懇親を深めました。

（関連記事２～５ページ参照）

〔第１号議案〕 2009年度 事業報告

１、記念講演の開催

2009年12月11日の岡山ＥＵ協会設立を記念しこの日、欧州の文化・経済事情について記念講演を開催しました。講師は慶応義塾大学法学部の田中俊郎教授で、演題は「なぜ今、ＥＵなのか」。会員ら約80人が聴きました。

２、「瀬戸大橋とオーレスン橋の周辺地域交流事業実行委員会」が３月にオーレスン地域で行う交流事業に協賛

瀬戸大橋の絵画コンクールで最優秀に選ばれた香川、岡山の小、中学生二人を親善大使とする視察団（団長・越宗孝昌代表幹事、岡山ＥＵ協会会長）が2010年３月24日から10日間、スウェーデン、デンマークを訪問し当地の市長、学生と交流しました。視察団には岡山ＥＵ協会理事の中島基善岡山経済同友会代表幹事、古市大藏地域振興委員長も同行、懇親を深めました。

３、駐日欧州連合代表部が行う「ＥＵがあなたの学校にやってくる」の準備

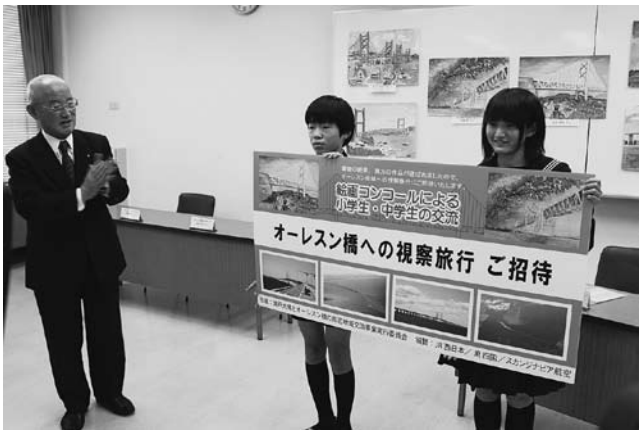
2009年５月11、12日、岡山県立岡山南高校に同代表部のヘイス・ベレンツ一等書記官、岡山県立西大寺高校に大阪・神戸ドイツ総領事のアレクサンダー・オルブリッヒ総領事、岡山高等学校にイタリア大使館セルジョ・モンティ一等書記官が来校しＥＵの歴史や活動状況について出張授業を行いました。前年の２校から３校に増えました。

４、岡山ＥＵ協会のホームページ立ち上げ準備

岡山県立大学情報工学部、デザイン学部の教授、学生たちの協力を得て行いました。岡山経済同友会情報化委員会の依頼で、両学部が同友会のホームページの企画・デザインで協力してくれたので、並行して岡山ＥＵ協会分についても協力依頼しました。

５、その他友好促進の事業

岡山ＥＵ協会の会員は優れた能力と経験の持ち主が多いので、その会員に講師になってもらいＥＵ諸国の経済や文化について学び合う場づくりの準備を進めました。その結果、新年度に入り「ＥＵ講座」を立ち上げることができ次田泰裕愛媛大学客員教授、古市大藏トミヤコーポレーション社長、大原謙一郎大原美術館理事長の講演につながりました。



〔第２号議案〕 2009年度 決算報告

収支決算

収入総額	¥1,813,067
支出総額	¥1,501,454
差引残高	¥311,613（2010年度に繰越）

収入の部

科　目	予算額	決算額	差引額	摘　　要
法人会費収入	¥2,000,000	¥1,220,000	¥－780,000	@20,000×61
個人会費収入	¥500,000	¥185,000	¥－315,000	@5,000×37
参加会費		¥408,000	¥408,000	12/11設立総会参加会費@8000×51
その他雑収入		¥67	¥67	普通預金利息収入
合　計	¥2,500,000	¥1,813,067	¥－686,933	

支出の部

科　目	予算額	決算額	差引額	摘　　要
総会費	¥1,000,000	¥1,244,760	¥244,760	12/11設立総会費用、準備会費用、田中俊郎先生講演料等
理事会	¥500,000		¥－500,000	
事業費	¥500,000		¥－500,000	
事務諸費		¥256,694	¥256,694	通信費68,420円、消耗品費188,074円、その他雑費
合　計	¥2,000,000	¥1,501,454	¥－498,546	

〔第３号議案〕 2010年度 事業計画

1、「ＥＵ講座」の充実
欧州の文化・経済事情についての勉強会開催を継続

2、駐日欧州連合代表部が行う「ＥＵがあなたの学校にやってくる」の受け入れ準備を行う

3、会報「EU Letter」の継続発行

4、岡山ＥＵ協会のホームページ充実

5、ＥＵとの友好促進事業の実施・共催

岡山EU協会のホームページ　URL: http://okayama-eu.jp

〔第４号議案〕 2010年度 収支予算書

（2010年４月１日～2011年３月31日）

収入の部

科　目	2009実績	2010予算	差引額	摘　　要
繰　越　金		¥311,613	¥311,613	
法人会費収入	¥1,220,000	¥1,300,000	¥80,000	@20,000×65
個人会費収入	¥185,000	¥225,000	¥40,000	@5,000×45
総 会 会 費	¥408,000	¥280,000	¥－128,000	総会参加会費
講 座 会 費		¥600,000	¥600,000	EU 講座会費など
その他雑収入	¥67	¥100	¥33	預金利息
合　計	¥1,813,067	¥2,405,100	¥592,033	

支出の部

科　目	2009実績	2010予算	差引額	摘　　要
総　会　費	¥1,242,660	¥800,000	¥－442,660	総会費用
事　業　費		¥1,000,000	¥1,000,000	EU 講座費用
広　報　費		¥300,000	¥300,000	会報、ホームページ費用
事 務 諸 費	¥258,794	¥150,000	¥－108,794	通信費、消耗品費、出張旅費、その他雑費
次年度繰越	¥311,613	¥155,100	¥－156,513	
合　計	¥1,813,067	¥2,405,100	¥592,033	

〔第５号議案〕 役員の選任について

（提案理由）

設立総会（2009年12月11日開催）において選任された役員のうち選出母体の人事異動等に伴う役員交代を行うもの。

理　事　　大学コンソーシアム岡山会長　　井　尻　昭　夫

講演要約

「将来的な日・EU、FTAの可能性について」

（6月8日　平成22年度岡山EU協会理事会・総会　岡山全日空ホテル）

講師　駐日欧州連合代表部 通商担当官　ジャン・フランソワ・ビーエ 氏

略　歴

ビーエ氏は、フランス・パリ生まれで、1988年４月に上智大学を卒業（国際政治学専攻）。89年５月に米国ジョージタウン大学、スクール・オブ・フォーリン・サービスを卒業、国際関係論修士号を取得。2003年３月には、東京大学大学院を修了、博士号（社会情報学）を取得。職歴では、1989年５月～2005年７月までソニー㈱（本社）、2005年10月～2009年８月バイエル薬品㈱（東京）を経て、2009年９月から現職。

はじめに

本日のお話のなかで、

１）日欧の経済統合の動き
　１．RRD（規制改革対話）
　２．首脳会議＝サミット
　３．４つのパイロットプロジェクト
　４．今後（HLG）
２）日欧FTA：得られるものは？
３）日本が直面する危機

について、触れたいと思います。

日本の規制改革に関するEUの提案は、相互の貿易と投資が円滑に流れ、増えていくことを目的として、毎年相手側の規制環境の改善に関する提案を交換しています。EUが日本に対して求めている規制改革は、日本経済をさらに活性化させ、日本の消費者に利益をもたらすものです。

日本の規制改革に関するEU提案は、百数十ページにも及びます。もちろん、日本側からのEUへの要望も受け付けています。RRD（規制改革対話）は毎年開かれていますが、成果は、なかなか上がっていません。

1994年に始まったRRDは、各政府間の自発的な対話で、正式対話でありません。従って、法的拘束力もありません。

投資については、EUと日本間に大きな貿易問題はありませんが、「小さな摩擦」や障害となる案件は多くあります。海外からの日本への投資は少なく、対GDP比４％程度なのも事実です。

EUの提案の主なものは、以下の通りです。

○企業再編―コーポレート・ガバナンス―課税、人的資源（ビザ）なども話題に上がっています。
○政府調達の案件が大きい。外国企業が日本の公共事業に参入しにくい状況があります。
○航空輸送では、エアバスは、世界で売れていないのは、日本とイスラエルだけ。
○自動車の安全技術ガイドラインは、不透明で分かりにくい。
○医療・化粧品
　ワクチン：メディカル・ディバイス・ラグ（Medical Devise Lag）EUでは、長くて３カ月、日本は１年半。
○食品安全および農産品
　香料など添加物、表示の問題

新たな思考：４つのパイロットプロジェクト

昨年から、新たな思考：パイロットプロジェクトを進めています。

これは、第18回日・EU定期首脳協議（09年５月４日、プラハ）で、以下のことを決めました。

両経済の統合の強化に協力する意図を表明。貿易制限的な障壁に対処し、市場アクセスの機会を増大し、日・EU間の直接投資を促進するための、可能な限りの、最善の環境を創出するために、短期間にかつ相互に有益なやり方で、具体的な成果が上がることが期待されています。いくつかの特定の非関税案件に焦点を当てることの重要性を強調しています。

両首脳は、遅くとも2010年の首脳協議までに進ちょく状況を確認します。

この考えに基づき、４つの分野（政府調達、木造建築材、自動車安全技術、医療機器）を選定し、まず、実験的にやってみようとしました。たとえば、政府調達（METI, MIC, MLIT）については、日本のすべての入札公告（中央政府、地方自治体、公共機関による調達）が掲載されている無料の一元的電子アクセスポイント（データベース）を設置。また、英語で情報を提供すること。木造建築材（MLIT）については、EU基準およびCEマーキングに適合する構造材が、日本市場に導入できる建築材であると、承認すること、

といったことです。

１年かけてやりましたが、日本側とEU側の評価はまちまちです。４つのうち進展がなかったのは医療機器で、残り３つはある程度進んだと思います。第19回日･EU定期首脳協議（2010年４月28日、東京）では、ハイレベル協議の実施と、双方が関心のある関税・非関税分野を含めた課題を取り扱いたい、としました。

FTAによって得られるもの

ここで、FTAによって得られるものは何かを考えるべきです。日本にとっては、EUの関税が撤廃（自動車10%、エレクトロニクス20%の関税がなくなるなど）されるならば、すぐにでも実行できるものが多くあり、経済的なメリットが生まれます。

ところが、EUにとっては、日本の非関税障壁の緩和（撤廃）や目に見えない、実効性が保障されないものがあります。つまり、日本側とEU側のメリットの不均衡（トヨタは大きな脅威、欧州の自動車業界が猛反対する）が課題です。FTAを結んでダメージを大きく受けるのは、欧州の自動車産業なのです。

同様に、韓国はEUとFTAを結び、欧州議会の承認待ちですが、欧州自動車産業は猛反対しています。

日本が直面する危機―孤立化・空洞化

05年以降、日本は、アジア諸国などとの貿易を促進するために、EPAやFTAを結んできました。相手国は、ASEAN諸国に加え、中南米のメキシコ、チリ、スイス（唯一の先進国）のみ。GCC（サウジアラビアやクエート、アラブ首長国連邦、バーレーン、カタール、オマーン）と韓国、インドと交渉中ですが、ペルーとの交渉は暗しょうに乗り上げ、この他、ミルクとチーズの農産物で、オーストラリアとの交渉も４年前から進んでいません。

しかし、この協定が、日本のためになったのかどうかは、疑問です。

EUはアジアの国々とFTAを次々に結んでいます。

2010年３月の時点で、EUはベトナムと通商関係強化の話し合いを始め、シンガポールでは自由貿易協定（FTA）に関する交渉を開始、インドでもFTA交渉推進に向けて努力する予定です。

さらにEUは、今後大きく成長する可能性がある大規模市場メルコスール（南米南部共同市場：アルゼンチン、ブラジル、パラグアイ、ウルグアイ）との貿易協定交渉も再開しています。カナダとの交渉も近々結ばれます。

日本の海外進出の進展と国内への投資の停滞

日本の対外直接投資額の推移（ネット）は、2000年以降、04年には400億円未満でしたが、1300億円を超える額に急伸しています。

これに対して、国内設備投資の推移は（前期比）、30%近く（04年）をピークに、08年にはマイナス40%近くに落ち込んでいます。

日本の海外進出の進展と国内への投資の停滞が見られます。

外国企業による拠点機能別の評価でも、日本の立地競争力が低下しています。09年度実施調査では、アジア地域統括拠点や製造拠点、Ｒ＆Ｄ（研究・開発）拠点、バックオフィス、物流拠点、金融拠点、販売拠点いずれにおいても、アジア諸国（中国、インド、韓国、香港、シンガポール、日本）のうちすべてにおいて中国が、第1位を占めています。

07年の時点では、アジア地域統括拠点やＲ＆Ｄ拠点については、日本が1位を占めていました。日本の立地競争力の低下が顕著に見られます。Ｒ＆Ｄ拠点では、インドは日本を凌がする勢いです。

日本企業は外にでているが、外から日本に入ってこない。この背景には、40%に迫る水準で、世界一高い日本の法人税率の問題が挙げられます。

Q&A

Q　省庁の認可については、製造責任を厳しく求める日本の国民性にも責任があるのでは。関税以外に日本が挙げる項目とは。大手企業では、EUとFTAを結ぶ外国経由輸出が早道だと考える経営者も多いのも事実です。（岡山EU協会副会長・永島氏）

ビーエ氏　省庁の責任を問う姿勢は、欧米と異なり、日本独特です。

次に、日本からの要望は、パイロットプロジェクト合計７つ（EU ４つ、日本３つ）あります。このうち、ビザについての要望があり、改善していきます。

外国経由輸出には、最低限の製造帰属国の決まりがあります。しかも、日本の空洞化の課題は残り、外からの投資を促進することにはなりません。

Q　日本と韓国、中国の各の印象は。また、「東アジア共同体」実現の可能性はありますか。（岡山EU協会理事・古市氏）

ビーエ氏　これまでの日本の鈍い動きが目立ちます。対照的に、韓国は決めたら動く国という印象を持っています。中国は、グローバルスタンダードのルールの順守がまだまだです。日本人は、真面目で、やる時はやる、いいところがあります。

鳩山前首相の論文“East Asia Community”の考え方も理解できますが、共通通貨までは、程遠い印象。それよりは、各国とFTAを結び活性化するほうが得策だと考えます。

イベントカレンダー

「ＥＵ講座」を開設しました

2010年４月10日（土）、EU諸国の経済や文化を学び合う初の「EU講座」を岡山市北区のホテルグランヴィアで開き、会員24人が参加しました。会員である次田泰裕愛媛大学客員教授が講師となり「EUにおけるレアメタルのリサイクル」と題して講演、ＥＵの先進事例を紹介しながら「自動車、家電製品に用途の広いレアメタルのほぼ全量を日本は輸入しているので再利用が最大課題。その際、都市部に眠る“都市鉱山”の活用に注目すべきだ」と指摘しました。

オランダフェスタを共催

４月17、18日（土、日）、岡山市中心部の表町商店街を舞台に開かれたオランダフェスティバル（主催者・同運営協議会）を共催しました。当会にとって初めての共催事業です。色鮮やかなチューリップに囲まれ、家族連れらが買い物、料理を楽しみました。このフェスタは江戸後期､オランダ商館の医師シーボルトの娘･おいねが表町近くに住んだことにちなんだ祭りです。

第２回ＥＵ講座で古市理事熱弁

５月８日（土）、第２回「EU講座］を岡山市北区の岡山国際交流センターで開催、理事の古市大藏トミヤコーポレーション社長が、スウェーデンとデンマークにまたがるオーレスン橋地域を３月末に視察した体験を踏まえ「北欧経済事情について」と題して講演しました。「デンマークとスウェーデンは国が異なるがひとつの経済圏を形成している。瀬戸大橋で結ばれている岡山、香川両県はこのノウハウを学ぶべきだ」と強調しました。

2010年ＥＵ協会全国総会

５月10日（月）、ＥＵ協会全国総会が東京都千代田区のヨーロッパハウスで開かれ、全国13のＥＵ協会から20人が出席しました。

昨年12月に設立したばかりの岡山からは古市大藏理事、金森満廣事務局長が初参加、最近の会活動の状況を報告すると

ともに意見交換しました。

中曽根沙織通商部調査役の「リスボン条約後のＥＵについて」の講演も行われました。

2010年「ＥＵがあなたの学校にやってくる」開催

５月11、12日（火、水）、駐日欧州連合代表部（東京）が2007年から実施している「EUがあなたの学校にやってくる」の出張授業が行われました。11日、岡山県立岡山南高校では同代表部ヘイス・ベレンツ一等書記官がやってきて生徒に質問を投げかけながら楽しくEUの歴史、活動状況を紹介しました。岡山県ではこのほかに12日、岡山県立西大寺高校で大阪・神戸ドイツ総領事のアレクサンダー・オルブリッヒ総領事、岡山高等学校でイタリア大使館セルジョ・モンティ一等書記官が授業を行いました。

6月理事会で5議案を原案通り承認

６月８日(火)、岡山市北区の岡山全日空ホテルで理事会が開かれました。理事総数20人に対し出席理事９人、書面表決委任者11人（うち代理出席８人）で事務局長が理事会が成立していることを報告。続いて会則に基づき越宗孝昌会長を議長に選び、総会に諮る2009年度の事業計画・収支計算書案、2010年度事業計画・予算書案など５議案を審議、全員異議なく原案通り承認されました。この後総会に移りました。

大原美術館で第３回ＥＵ講座

９月11日（土）、ホテル日航倉敷（倉敷市阿知）で11月に創立80周年を迎える大原美術館（同市中央）の学芸員サラ・デュルトさんから「大原美術館とヨーロッパの美術について」、大原謙一郎理事長から「文化の力と大原美術館の経営理念」の講演があり、約40人が参加しました。大原理事長は「文化はそれ自体が尊いのであって力があるから尊いのではない」「大原美術館は世界中のアートを集めており“多文化理解の装置”といえる」などと力説しました。

この講座には駐日欧州連合広報部のルディ・フィロン部長も列席、講演後、参加者と一緒に大原美術館に移動しエル･グレコ、モネ、ゴーギャン、マティスなど優れた作品をじっくり鑑賞。その後、立食パーティを開き、親睦を深めました。

事務局より

▽ＥＵのことをもっと知ろうーと会員の一人に講師になってもらって始めた「ＥＵ講座」が順調に進んでいます。４月の次田泰裕愛媛大学客員教授、５月の古市大藏理事、９月の大原謙一郎理事の皆さん、ボランティアの講師を務めていただき、誠にありがとうございました。さらに４回、５回と着実に会を重ねていきたいものです。“私もできそう”と思われている方、事務局まで名乗り出て下さい。

▽６月、初めての総会も無事、終了し事務局としてもホッとしているところです。至らぬ点もあったと思いますが、そんな時は、どんどんとご指摘下さい。そして、もし、余力があれば手助けして盛り上げて下さい。

▽昨年の総会時に97人だった法人・個人会員は現在、法人62、個人44の106法人・個人になっています。少しずつですが着実に増えています。どこかの元総理ではないですが「会員数はやはり会活動の原動力」になります。引き続き会員増強にご協力下さい。

▽７月でしたか、東京の欧州連合代表部からメールで「ほぼ毎年、欧州よりスピーカーを招へいし、ユーロに関する講演会を開いています。岡山はこれを引き受けますか」とのお誘いがあり、即刻「イエス」の返事。下記の通り、岡山経済同友会との合同の形で講演会を開催することになりました。岡山ＥＵ協会があったればこそ可能になった講演会です。なお、東京、宮城、秋田でも開かれます。

岡山経済同友会との合同講演会への参加のお誘い

ギュンター・グロッシェ氏

日　時

2010年10月19日（火）午後１時半から

場　所

岡山市中区門田本町　ホテルオークラ岡山　別館「瑞光の間」

講　師

ギュンター・グロッシェ　元ユーログループ議長特別顧問

演　題

「ユーロと欧州統合―その過去、現在、未来」（同時通訳で行います）

新規会員を募集しています

岡山ＥＵ協会会則（抜粋）

（目的）岡山県とＥＵ諸国との相互理解を深め、友好を促進し文化、経済の交流に寄与する

（事業）地域交流会の開催、講演会、セミナーなど

（会員）協会の目的に賛同する法人、個人

（会費）法人は年額２万円、個人は同5,000円

岡山EU協会についてのお問い合わせ

事務局

〒700-0985　岡山市北区厚生町3-1-15
岡山商工会議所ビル５階

ＴＥＬ：086-222-0051
ＦＡＸ：086-222-3920
Ｅメール：info@okayama-eu.jp
ＵＲＬ：http://okayama-eu.jp
担　当：金森　大原　太田　宮田